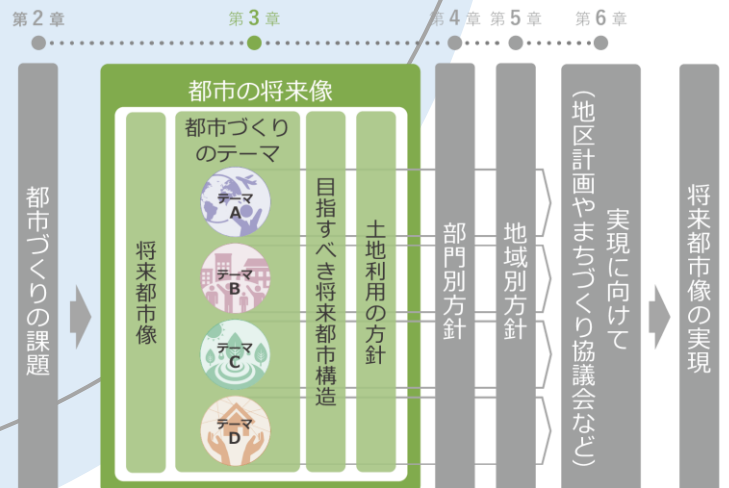


3

都市の将来像

- 01. 大田区の立ち位置
- 02. 将来都市像
- 03. 都市づくりのテーマ
- 04. 目指すべき将来都市構造
- 05. 土地利用の誘導



第3章 都市の将来像

第2章では、社会状況、将来の変化、大田区の現状と都市づくりの成果等を踏まえ、都市づくりの課題を整理しました。それらを踏まえながら長期的な視点を持って都市づくりを進めていくため、大田区の将来都市像を示すとともに、その実現に向けた都市づくりのテーマを設定します。また、テーマを意識した将来の都市の姿・骨格となる「目指すべき将来都市構造」や「土地利用の誘導方針」を示し、今後の都市づくり方針の前提とします。

01 大田区の立ち位置

大田区の将来都市像を描くため、大田区の東京圏における立ち位置を上位計画等から整理します。

交通	羽田空港や東京港を有すると共に、都心部と横浜・川崎の間に位置し、重要な鉄道、幹線道路が多数貫いており、国内外における人・モノ・情報が集積・交流する東京圏の交通結節点としての役割を担います。
産業	ものづくり産業や流通機能が立地する特色を活かし、産業の広域連携の一翼を担います。
水と緑	東京湾や河川に面し大きな公園・緑地を有しており、臨海部には観光・スポーツ・レクリエーション施設が広域的に立地しています。区民のレクリエーション、健康増進などを支えるとともに、緊急時の避難経路としても活用できる水と緑のネットワークの形成を担います。
住環境	緑豊かで良質な住宅地や産業などの機能と複合した住宅地など特色を活かし、多様なライフスタイルを生み出す住環境の創出を担います。

02 将来都市像

大田区基本構想で掲げる将来像や区民参画の成果、将来の変化、現行都市計画マスタープランの理念、東京圏における大田区の役割などを踏まえ、将来都市像を設定します。

将来都市像

「暮らす・働く・訪れる」 大田区らしい多彩な景色が人々を惹きつける

大田区らしい景色とは、豊かな水と緑、住・商・工などさまざまな表情を見せるまちなみ、国内外とつながる空港や港湾、長く育まれてきた歴史や文化など、多様性を持つ都市において、人々の「暮らす、働く、訪れる」という活動が、地域力を源として生き生きと展開されている様子をいいます。

グローバル化の進展、少子高齢化の進行、自然災害の激甚化、技術革新の進展など、都市を取り巻く環境は日々変化しています。このような状況に柔軟に対応しながら、多様性を育み、住環境向上を図りつつ職住近接や観光振興など活力ある都市活動を与え、大田区らしい多彩な景色がより多くの人を惹きつける都市を実現していきます。

03 都市づくりのテーマ

将来都市像を実現するためには、生活の中の人々の活動（ソフト施策）とそれを支える都市基盤整備などの都市計画と深く関わる取組（ハード施策）が一体となった展開が必要です。そこで、ソフト施策とハード施策を織り交ぜた4つのテーマを設定し、実現に向けた取組を部門別方針で示します。また、テーマごとに目指す姿を設定するとともに将来イメージを示し、区民をはじめとした様々な主体と目指す姿を共有しながら、実現に向けて取り組んでいきます、

なお、テーマは、第2章の「都市づくりの課題」を解決するための重点項目を視点として整理し、それらを取りまとめて設定しました。テーマの視点は、第4章で示す部門別方針の各取組に対して横断的に示すことで、戦略的な都市づくりを推進します。

都市づくりのテーマ

テーマ	視点
 <p>テーマ A. にぎわいと 交流を生む 国際都市の発展</p> <p>Keywords 活力、国際化、文化観光、産業、広域交通</p>	<p>視点1 持続的成長を支える魅力ある拠点</p> <p>視点2 都市の発展を牽引する産業環境</p> <p>視点3 来街者も円滑に移動できる交通環境</p>
 <p>テーマ B. 地域力を育む 暮らしやすい 場の提供</p> <p>Keywords 地域力（協働）、生活（福祉・子育て等）、 地域産業、地域交通</p>	<p>視点4 多様なライフスタイルに対応できる良好な住環境</p> <p>視点5 様々な移動手段を選択できる地域交通</p>
 <p>テーマ C. 安全・安心な 生活の実現</p> <p>Keywords 防災対策、生活安全</p>	<p>視点6 強靱で回復しやすい減災都市</p> <p>視点7 様々な活動に支えられた安全・安心な都市</p> <p>視点8 オープンスペースを活かした防災都市</p>
 <p>テーマ D. 地球に優しい 環境の創出</p> <p>Keywords 水と緑、脱炭素社会</p>	<p>視点9 水と緑のネットワークによる安らぎのある都市</p> <p>視点10 持続可能な社会の基盤となる脱炭素化が進む都市</p>



テーマ A. 「にぎわいと交流を生む国際都市の発展」

Keywords 活力、国際化、文化観光、産業、広域交通

- 視点1 持続的成長を支える魅力ある拠点
- 視点2 都市の発展を牽引する産業環境
- 視点3 来街者も円滑に移動できる交通環境

目指す姿

大田区らしい「暮らす、働く、訪れる」などさまざまな活動が展開され、人々の自由自在な移動と交流が確保されるなど、国際都市としてふさわしいにぎわいや機能を備えた拠点づくり、大田区の産業を世界に発信する拠点づくりが進んでいます。業務・商業・生産機能等に加え、居住環境や教育・文化機能、居心地の良い交流・滞在空間が提供され、地域の魅力が高まり、人材を呼び込んでいます。加えて、都市において多様な文化との共生が進んでいるとともに、海外や区外から多くの来街者が訪れ、さらにユニバーサルデザインに配慮された区内の多彩な地域資源を回遊することで大田区の魅力を楽しんでいます。また、高付加価値を産み出すものづくり産業の集積地として、活力ある事業者等が産業を牽引し、国内外と活発にビジネス交流しています。

新空港線や都市計画道路などの交通ネットワークが整備され、蒲田、大森、羽田空港及び周辺地区、臨海部の4つの拠点が一体となり、連携してつながりを活かすことで、国際交流拠点都市として持続的に成長し、広域的な区の役割を果たしています。

1

持続的成長を支える 魅力ある拠点



多国籍で賑わう



滞在で生まれる交流

賑わいあふれる商業地



2

都市の発展を牽引する 産業環境



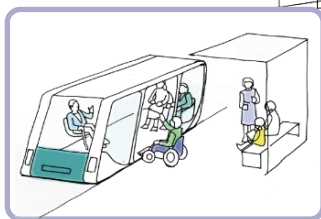
町工場の技術が生きる



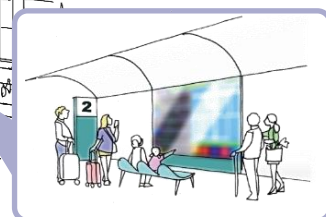
多様な働き方

3

来街者も 円滑に移動できる交通環境



デジタル技術を使った
案内板





テーマB. 「地域力を育む暮らしやすい場の提供」

Keywords 地域力（協働）、生活（福祉・子育て等）、地域産業、地域交通

視点4 ▶ 多様なライフスタイルに対応できる良好な住環境

視点5 ▶ 様々な移動手段を選択できる地域交通

目指す姿

人々の「暮らす、働く、訪れる」という活動が地域力を源として展開され、職住が近接し、暮らしの場、働く場、憩いの場として様々な機能を備えた、居心地が良いウォークアブルな地域づくりが進んでいます。暮らしやすさや景観をさらに磨き上げることにより、高齢者や子ども、障がい者、外国人などを含めたすべての人がライフスタイルや価値観の多様化に応じて、暮らし、働き、憩う場が幅広く自由に選択できる都市となっています。また、商店街がにぎわいの場、人々のつながりの場として区民の暮らしを支えるとともに、新たなビジネスの創出、相互交流が活発に行われるなど、いきいきとした地域産業のまちを形成しています。

少子高齢化が進展する中、多世代の交流、スポーツ・健康まちづくりなどにより、高齢者などが自立した生活を営み、かつ、幅広い年齢層の人々が「地域力」を育む担い手として活躍しています。また、ユニバーサルデザインに配慮した都市機能やユニバーサルデザインの考え方が浸透し、だれもが利用しやすい公共施設等が効果的・効率的に配置され、地域特性を活かし快適に過ごすことのできるまちが形成されています。

移動については既存の公共交通の充実に加え、グリーンスローモビリティなどの新たな技術を取り入れ、超高齢社会等への対応がなされているとともに、快適な歩行空間が創出され誰もが歩きたくする都市が実現されています。

4

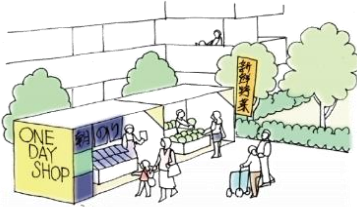
多様なライフスタイルに対応できる良好な住環境



歴史ある建物がまちのシンボルに



多様な暮らし方



気軽な出店ができる

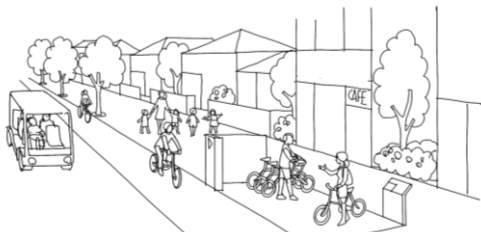


住民参加でまちづくり



5

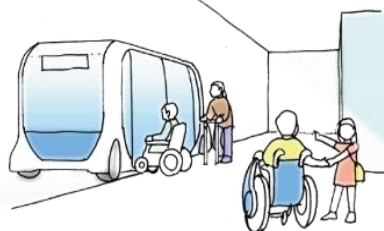
様々な移動手段を選択できる地域交通



自転車で安全に移動できる



誰でもどこでも行けるまち





テーマC. 「安全・安心な生活の実現」

Keywords 防災対策、生活安全

- 視点6 強靱で回復しやすい減災都市
- 視点7 様々な活動に支えられた安全・安心な都市
- 視点8 オープンスペースを活かした防災都市

目指す姿

気候変動の影響により激甚化する自然災害や複合災害への対応や、快適で安心な日常生活を送ることができる都市環境整備により、安全・安心な都市として多くの人を惹きつけています。また、首都直下地震や近年頻発する集中豪雨などの自然災害や感染症等の新たなリスクに対し、木造住宅密集地域の改善や治水対策、発災時における都市インフラ・空港の機能継続など、防災・減災と迅速な復旧・復興に資する取組が計画的に実施され、強靱で回復しやすい都市づくりが進んでいます。

加えて、地域の防災・防犯まちづくり活動のさらなる充実や区民・行政・事業者の連携が進むことで地域力が向上し、人々の生活を支えています。

オープンスペースの整備は、非常時に利用できる土地の選択肢を広げるという点から重要です。公園や緑地、河川などの資源や公共空間が最大限活用され、複合災害にも柔軟に対応できる都市が形成されています。

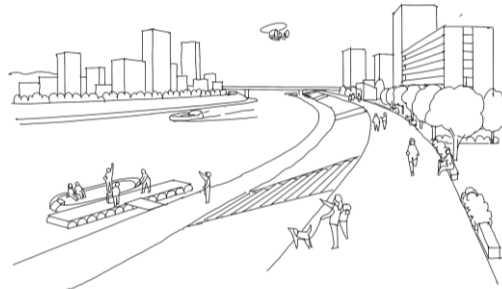
6

強靱な減災都市による
回復しやすい都市

災害時に頼れる場所



無電柱で安全なまち



7

様々な活動に支えられた
安心・安全な都市



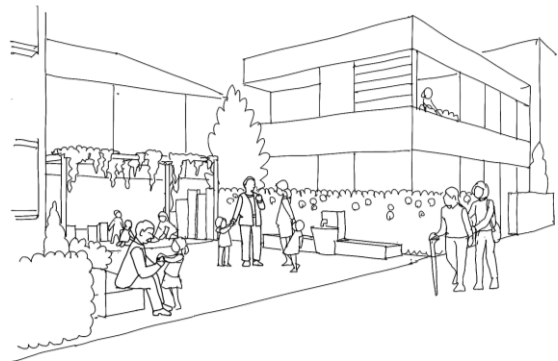
人の繋がりで顔の見えるまち



平時から復興を意識する

8

オープンスペース
を活かした防災都市



空き地を防災広場に





テーマD.「地球に優しい環境の創出」

Keywords 水と緑、脱炭素社会

視点9 水と緑のネットワークによる安らぎのある都市

視点10 持続可能な社会の基盤となる脱炭素化が進む都市

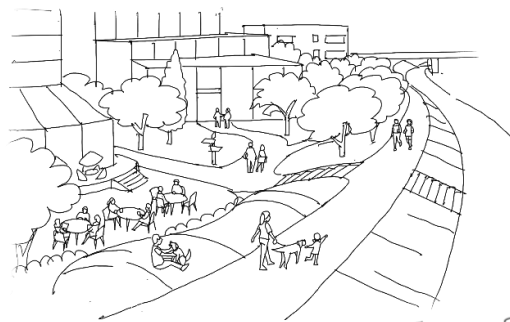
目指す姿

豊かな水と緑などさまざまな表情を見せる大田区らしい景色が持続可能となるよう、環境に配慮した都市づくりが進んでいます。公園・緑地、民間空地等の広場のほか、街路等の公共空間などは、都市の緑やオープンスペースとして、多機能性を持つグリーンインフラとしての価値やポテンシャルも含め、その価値が再認識されています。公園や緑地、河川などの環境資源や公共空間が最大限活用され、誰もが身近な場所で水や緑にふれあい、心地よく親しむことができる都市になっています。

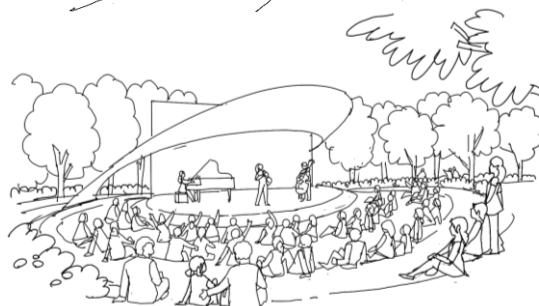
脱炭素化に向けて、環境性能の高い住宅などや木材を利用した建築物が立ち並び、環境負荷の少ない交通手段の導入等が図られるとともに、再生可能エネルギーの利活用が推進された都市が形成されています。さらに、区民・行政・事業者が連携・協働し、環境にやさしい省エネルギー型のライフスタイルを実践することで、まち全体の環境保全意識が向上し、経済活動や日々の生活に伴う温室効果ガスの排出量が削減されています。加えて、建物や道路の排熱抑制や緑の活用などによるヒートアイランド対策が進められ、地球環境に優しい都市が実現しています。

9

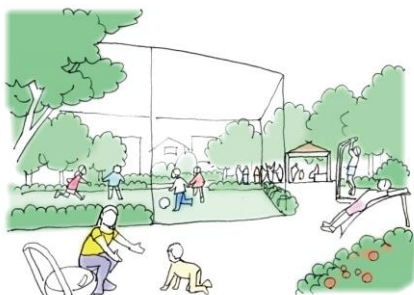
水と緑のネットワーク による安らぎのある都市



地球に優しい環境の創出

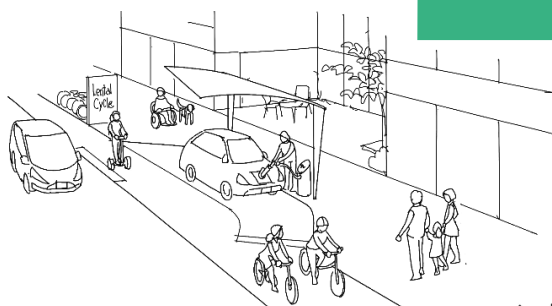


地域の活動で素敵な公園

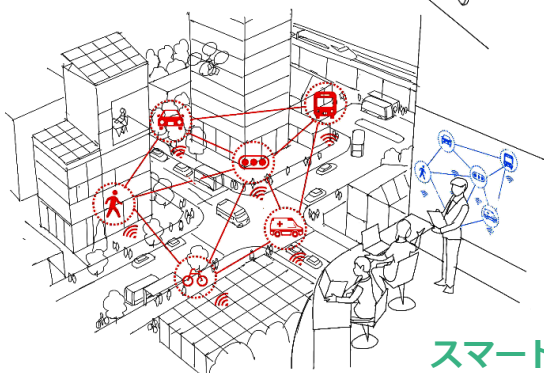


10

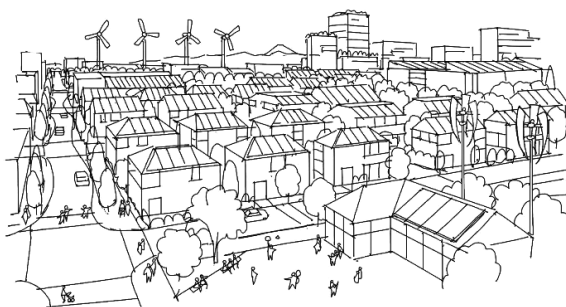
持続可能な社会の基盤となる 低炭素な都市



新しいエネルギーを
使った車が普及



スマートシティの実現



04 目指すべき将来都市構造

拠点と都市軸を主な構成要素とし、今後の都市づくり方針の前提となる都市空間の骨格となる都市構造を示します。

(1) 将来都市構造の考え方

1) 広域視点と大田区視点の都市構造

都市は、日常生活の核となる身近な地域を土台とし、生活を支える多様な生活関連施設が集まる地域、商業・業務・公共など主要な都市機能が集積する地域など、性格の異なる地域が重なり合っています。さらに、道路や鉄道が多様な地域間を結びつけることで都市が成り立ち、活力を生み出しています。

このような都市の中で、将来都市像の実現に向けた目指すべき都市空間の骨格を示すため、地形特性や拠点域（面）、拠点（点）、連携軸（線）、交流網（線）を主な構成要素として、今後の都市づくり方針の前提となる、区のあるべき姿を示します。

将来都市構造は、東京圏における大田区の役割を整理した「広域でみた都市構造」と、区内の機能集積や拠点間交流などを整理した「大田区でみた都市構造」により構成されます。

2) 大田区の地形特性

エリア	地形特性
区の北西部 (台地部)	区の北西部（台地部）は、国分寺崖線及び南北崖線を境とした、武蔵野台地の東端にあたり、谷と丘が入り組んだ起伏のある地形です。関東大震災後住宅化が進み、田園調布、雪谷、久が原、馬込など、緑の多い住宅地となっています。
区の中央部 (低地部)	区の中央部（低地部）は、多摩川、呑川、内川が運んできた土砂が堆積した、比較的平坦な地形です。東海道の街道筋だった地域では、交通の要所となり、古くから人の往来が多く、大正期以降、中小工場が進出し、住宅や工場が密集する住工混在地域や商業地を形成しています。
区の東部 (空港・臨海部)	区の東部（空港・臨海部）は、昭和の中頃から開始された埋立地からなる、平坦な地形です。空港をはじめトラックターミナルやコンテナふ頭、市場など物流施設のほか、工場団地、野鳥公園など都市機能施設が整備されています。

(2) 広域でみた都市構造

1) 東京圏における大田区役の役割

- ・重要な交通結節点を有する大田区は、産業・交流の広域連携の一翼を担い、東京圏全体の成長に資する役割を持ちます。

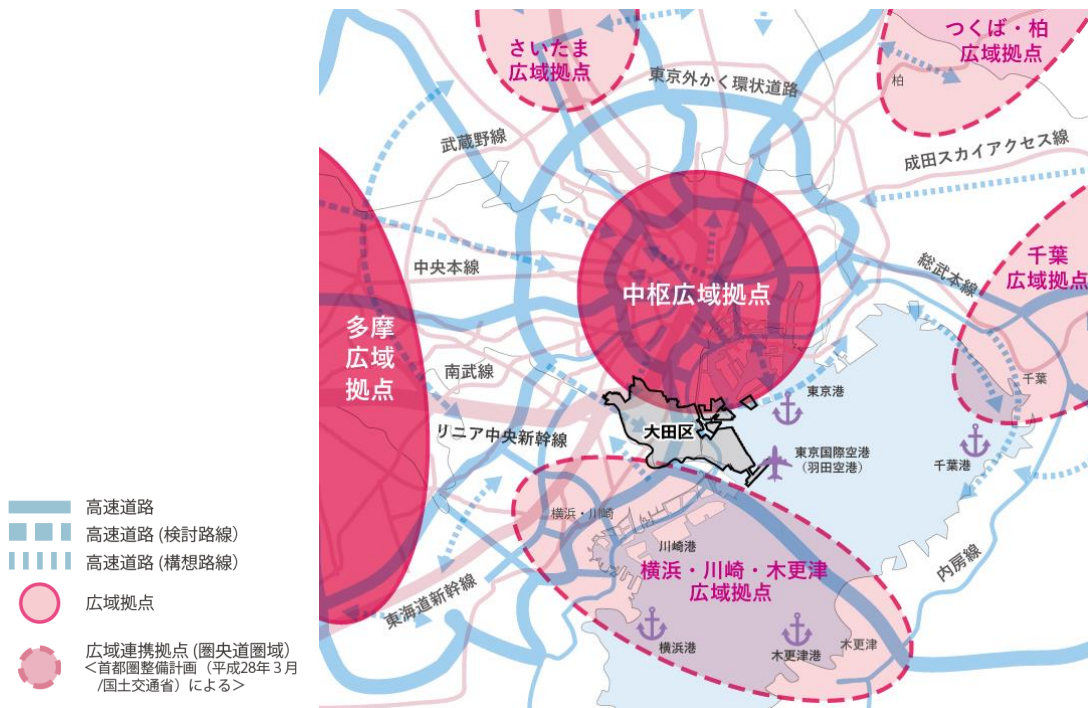


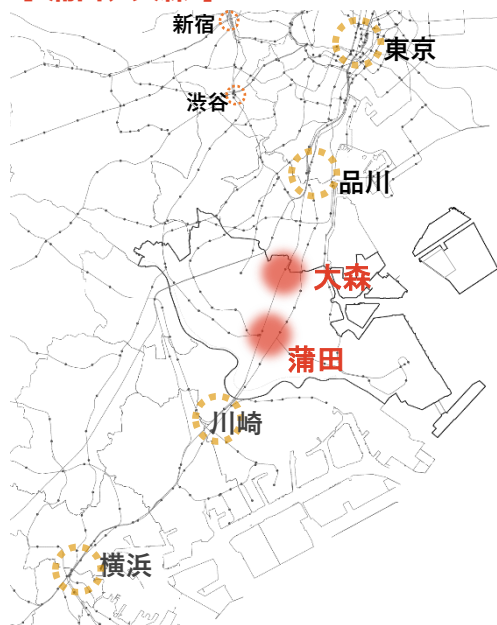
図 東京圏における大田区役の役割

出典：東京都 都市づくりのグランドデザイン (H29年) を基に作成

2) 広域拠点域

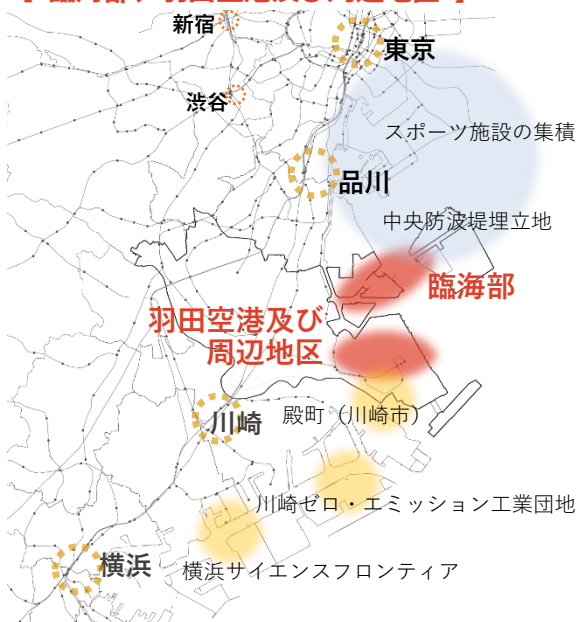
- ・広域的な交通結節機能を有し、多様な都市機能の集積や広域的に機能が連なる地域を概念的に捉えた概ねの範囲を「広域拠点域」として設定します。
- ・広域拠点域は、東京圏における広域交流機能としての役割と地域間交流の中心機能を担い、今後の都市づくりにおいてさらなる拠点性の強化・向上を目指します。

【 蒲田、大森 】



<p>蒲田 (蒲田駅周辺)</p>	<p><将来の展望></p> <p>区の中心的な商業業務地として発展しつつ、世界の最先端技術を有するものづくりのまちとしての役割も担います。今後は、羽田空港の機能強化や、新空港線整備とあわせた地区の再整備等により、さらなるまちの発展が期待されます。</p>
<p>大森 (大森駅周辺)</p>	<p><将来の展望></p> <p>蒲田とともに中心的な商業業務地として発展。地形・歴史・文化などの特色を活かしたまちづくりや、都市基盤施設整備を始めとする市街地の機能更新、臨海部への交通機能の強化などにより、さらなるまちの発展が期待されます。</p>

【 臨海部、羽田空港及び周辺地区 】



<p>臨海部</p>	<p><将来の展望></p> <p>広域的な交通や、製造業・物流・文化・レクリエーションなどの都市機能の集積により、多様な都市活動が展開されています。今後は産業・観光振興、交通ネットワークの強化、水と緑のネットワークの形成などにより、さらなる発展が期待されます。</p>
<p>羽田空港及び 周辺地区</p>	<p><将来の展望></p> <p>更なる機能強化や多様なアクセスの充実が図られる羽田空港のポテンシャルを活かし、HANEDA GLOBAL WINGS(羽田グローバルウイングズ)の開発などにより、区内や国内外の産業交流・観光振興が期待されます。</p>

3) 広域連携軸

- ・都市間の連携や交流の促進及び強化に資する広域交通ネットワークとして、幹線道路及び鉄道等を骨格とした「広域連携軸」を設定します。
- ・広域連携軸は、大田区の広域拠点域と周辺区市の主要拠点を結び、広域拠点域の発展に資する役割を担うため、更なる利便性の強化・向上を目指します。

【 広域連携軸を構成する道路網 】

- 環状七号線 ○東京港臨海道路 ○環状八号線 ○放射 19 号線 ○放射 17 号線
- 首都高速湾岸線 ○都市高速道路 1 号線 ○東京湾環状線 ○補助 333 号線

【 広域連携軸を構成する鉄道網 】

- 東急多摩川線 ○京急空港線 ○新空港線 ○区部環状公共交通 ○JR 京浜東北線
- 京急本線 ○東京モノレール羽田線 ○羽田空港アクセス線
- 東海道貨物支線貨客併用化

4) 広域でみた目指すべき将来都市構造

- ・広域拠点域が、地域特性を活かし個性ある拠点域を形成するとともに、拠点域同士をつなぐネットワークの強化により有機的な連携を高めます。さらに、周辺区市と連携し東京圏全体の成長に寄与することで、大田区の更なる発展を目指します。
- ・4 拠点域の連携については、広域連携軸を構成する道路・鉄道等の強化に加え、その他の道路や公共交通、さらに新技術などを活用し、最適な手段を検討します。

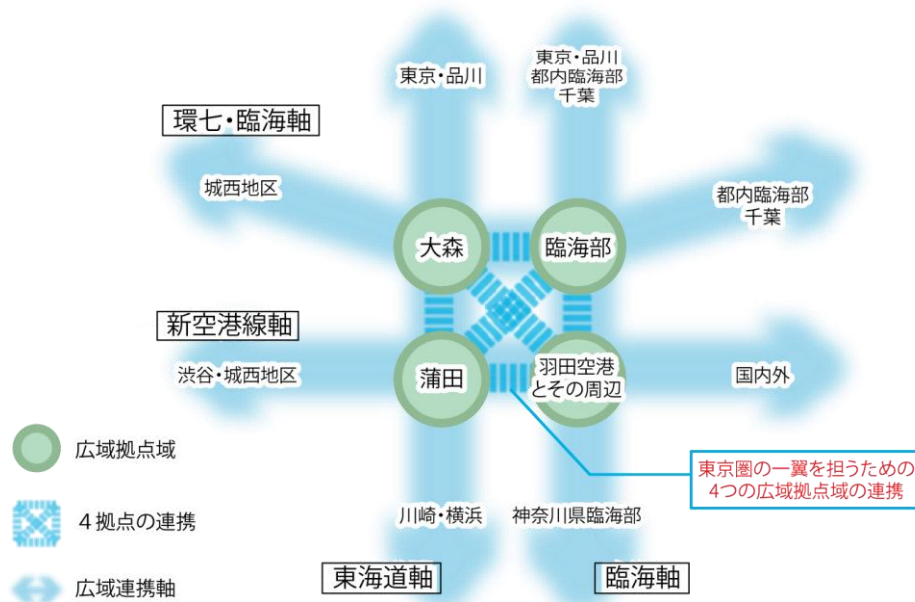




図 広域でみた将来都市構造

(3) 大田区でみた都市構造

1) 中心拠点・生活拠点

- ・主要な都市機能や多様な生活関連施設が集まり、地域特性を活かした都市づくりの強化・活性化を図る地域の概ねの範囲を「中心拠点」「生活拠点」として設定します。
- ・各拠点は、都市機能の集積や都市づくりの動向、関連計画における位置づけ、将来の変化などを考慮した上で設定します。また、各拠点の具体的な都市づくり方針は、日常生活の核となる身近な地域との関わりとあわせて第5章の地域別方針に示します。

分類	考え方	拠点
中心拠点 	商業・業務・公共など主要な都市機能、鉄道・バスなど主要交通の重要な結節機能などが集中して立地する地区。区内全域及び周辺区市との連携・交流の拠点となる。都市機能や生活関連施設などのさらなる集積を図り、広域連携・交流の役割を担う拠点として、都市づくりを強化していく。	大森駅周辺、蒲田・京急蒲田駅周辺、HANEDA GLOBAL WINGS（羽田グローバルウイングズ）
生活拠点 	暮らす・働くなどの生活を支える多様な機能を有する、若しくは今後機能向上を図る地区。身近な地域同士など区内交流の拠点となる。	多摩川駅周辺、池上駅周辺、下丸子駅周辺、平和島駅周辺、雑色駅周辺、田園調布駅周辺、大岡山駅周辺、西馬込駅周辺、雪が谷大塚駅周辺、洗足池駅周辺、糞谷駅周辺、大鳥居駅周辺、穴守稻荷駅周辺
	臨海部の玄関口としての立地特性を活かしながら、働く人の生活を支える拠点として、交通結節機能などを強化していく。	

2) 拠点交流網

- ・区内における人やモノの交流促進に資する地域交通ネットワークとして、鉄道及び主要道路等を骨格とした「拠点交流網」を設定します。
- ・拠点交流網は、中心拠点や生活拠点を相互に交流させ、域内移動の円滑化や地域連携の活性化に資する機能を有します。また、広域連携軸及び周辺区市の拠点とも接続する、都市づくりを支える重要な交通網です。

【拠点交流網となる道路】



放射2号線、放射1号線、放射17号線、放射19号線、環状八号線、環状七号線、補助27号線、補助28号線、東京湾環状線、東京港臨海道路、補助333号線

【拠点交流網となる鉄道】



JR京浜東北線、東急多摩川線、東急池上線、東急東横線、東急目黒線、京急本線、京急空港線、東京モノレール羽田線、都営浅草線、新空港線

【拠点交流網となる散策路】



呑川緑道、海辺の散策路

3) 大田区でみた目指すべき将来都市構造

- ・各拠点の分類や地域特性に応じ、主要な都市機能や多様な生活関連施設などの集積を活かした、機能的でにぎわいのある拠点を形成していきます。また、拠点交流網を使って拠点間を相互に交流させることで、身近な地域で誰もが活動しやすく快適に暮らすことのできる都市づくりを目指します。
- ・生活拠点は、都市計画マスタープランの定期的な振り返りの際に、都市づくりの進捗や機運の高まりなどを鑑み、位置づけの有無について検討するものとします。

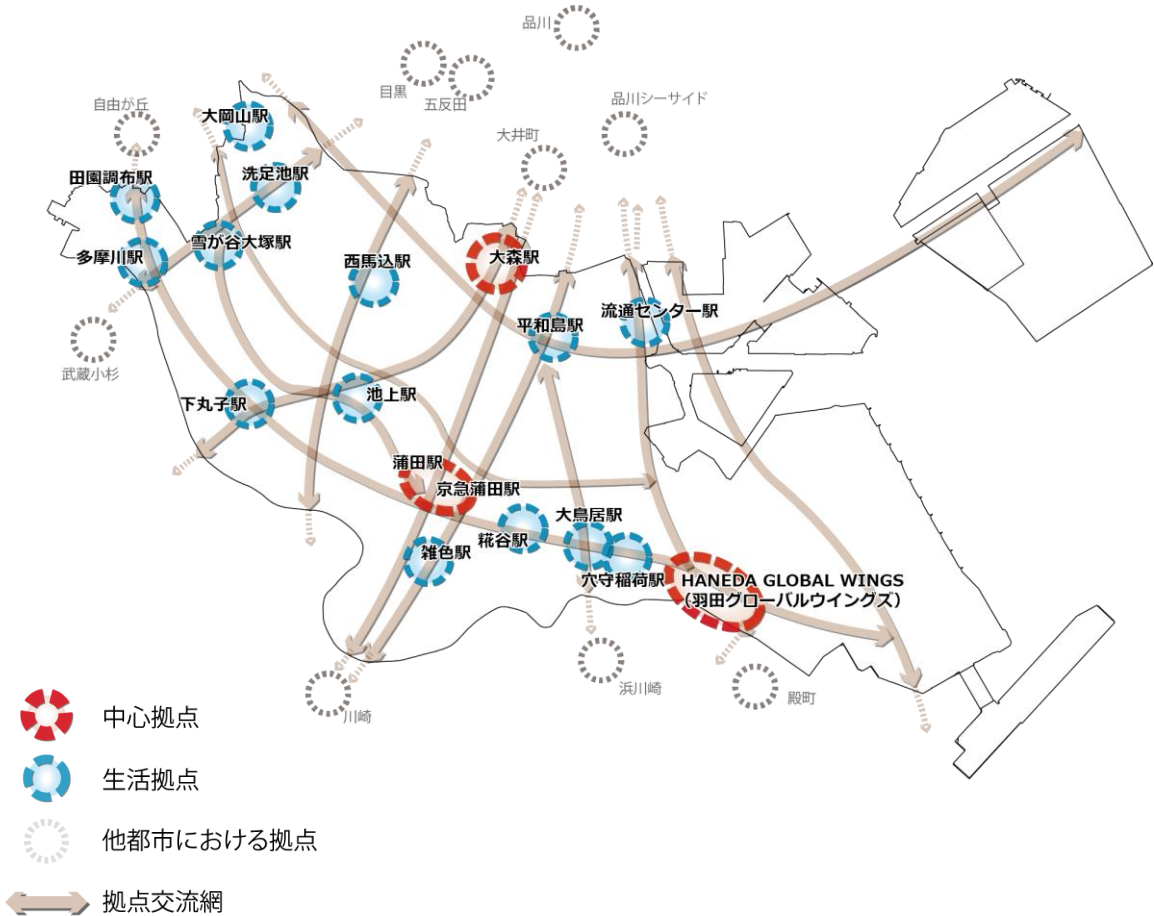


図 大田区でみた将来都市構造

4) 全体将来都市構造

大田区の地形特性、広域でみた将来都市構造、大田区でみた将来都市構造を重ね、全体将来都市構造として示します。

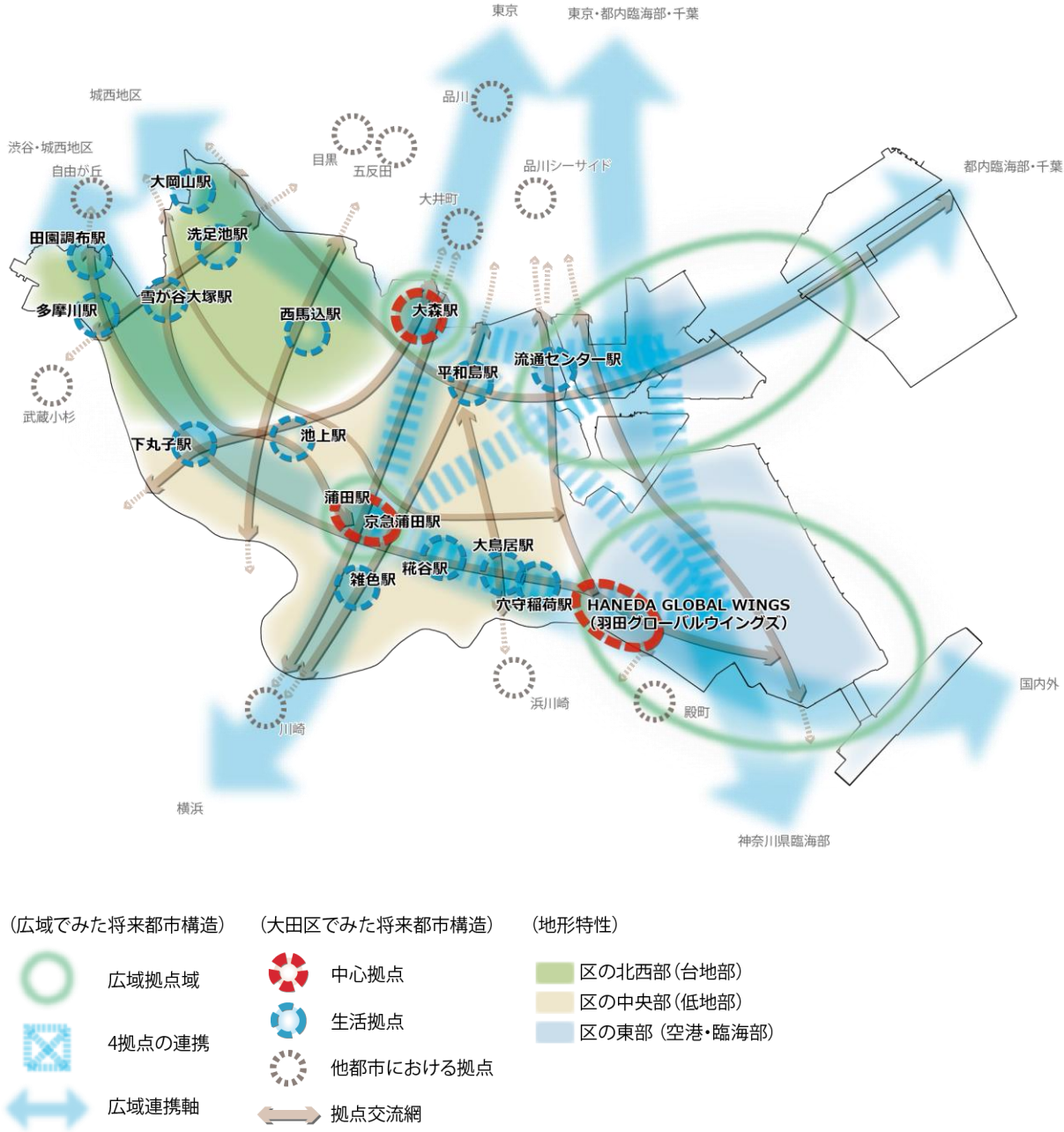


図 全体将来都市構造

05 土地利用の誘導

大田区が東京圏において果たす役割を踏まえ、拠点の活性化や区の特徴である「産業」の発展、快適な住環境の確保などの実現に向け、土地利用の適切な誘導を図ります。

(1) 大田区における土地利用の現況と課題

大田区は比較的早くから市街化が進み、都市の基盤は耕地整理と戦災復興の土地区画整理事業により整備されてきました。その後、様々な都市計画を実行していく中で、徐々に市街地の改善が行われ、約100年かけて現在の都市基盤が整備されてきました。

大田区の土地利用の特徴は、武蔵野台地東端にあたる、久が原台、荏原台と呼ばれる北西部の台地部と多摩川、丸子川、呑川、内川等が運んできた土砂が堆積した中央部の低地部、戦後の埋め立てによる東部の空港・臨海部に大きく3区分されているところです。

3つに分かれた地形を活かし、良好な住宅地から中心市街地、埋立島部の産業系土地利用に至るまで様々な土地利用が存在します。

こうした土地利用の多様性は、大田区の魅力となっていると同時に、いくつかの課題を抱えています。ひとつには、工場と住宅が混在した市街地における工場の操業環境と住環境の調和があげられます。また、商業業務の発展を図る地域と閑静な住宅地が隣接しているために、双方の土地利用の調整が必要な地区もあります。

大田区は工場が集積する地区として知られていますが、近年では工場は減少傾向にあり、工場から集合住宅等への土地利用の転換が進んでいます。また、敷地の細分化や戸建て住宅から共同住宅等への建替えに伴うみどりの減少など、人口増加に伴う土地利用の課題を抱えています。

(2) 土地利用の誘導方針

大田区の地域特性に合わせ、現在の土地利用状況を維持しつつ、都市基盤とのバランスにも配慮しながら、多様なライフスタイルに対応する都市機能の集積やみどりの確保、都市づくりへの区民参画などに対応した土地利用を進め、住環境や産業環境の維持・向上を図ります。

①住環境保全型市街地

緑豊かで比較的ゆったりとした良好な住宅市街地については、現在の住環境の保全を図ります。



緑豊かな低層の住宅地

②環境維持向上型市街地

耕地整理事業から戦後復興、高度経済成長とともに、都市基盤の利便性を活かし発展した中層や低層の建物が立ち並ぶ住宅地については、現在の環境を維持しつつ、道路等の公共施設の整備などによる住環境の向上を図ります。

③住工調和型市街地

大田区の特徴であるものづくり工場と住宅が混在する市街地については、各地区の実情に応じた建築物の整備の誘導を図るとともに、新たな産業を取り込みながら、多様なライフスタイルに対応する、住宅とものづくり工場などの産業拠点が調和した市街地の形成を目指します。



住工調和型市街地

④都市型産業市街地

都市基盤の整備とともに歴史的な変遷を経て、商店や工場が集積している市街地については、地区内の住宅や隣接する住宅との調和を図りながら、商業やものづくりなどの産業を活性化するため、さらなる都市機能の集積を目指します。



都市型産業市街地

⑤幹線道路沿い市街地

幹線道路沿いの市街地については、交通の利便性を活かした産業系施設の立地、幹線道路の騒音や振動に配慮した環境づくり、災害時の避難路の確保や延焼遮断帯の形成などの観点から、幹線道路沿いにふさわしい市街地の形成を図ります。

⑥中心商業業務市街地

中心拠点として業務・商業系の土地利用が集中している蒲田駅及び大森駅周辺は、さらなる都市機能の強化を図りながら、ゆとりとにぎわいのある市街地形成を図るとともに、広域拠点域の活性化に寄与する都市づくりを目指します。

⑦工業維持促進型市街地

比較的まとまった規模の工場や物流施設が集積する市街地については、隣接する住宅との調和を図りながら、引き続き、工場の立地や操業を継続できる環境の維持、促進を目指します。

⑧物流・流通ターミナル市街地

東京圏の一翼を担う港湾機能や物流機能が集積する市街地については、保有する機能の維持強化を図るとともに、広域拠点域の活性化に寄与する都市づくりを目指します。

⑨産業活力展開型市街地

工業系施設が集積する市街地については、ものづくり産業等の操業環境の維持・向上を図るとともに、北側の港湾・物流機能が集積する市街地と連携しながら、広域拠点域の活性化に寄与する都市づくりを目指します。

⑩中心商業業務市街地 (HANEDA GLOBAL WINGS)

中心拠点である HANEDA GLOBAL WINGS(羽田グローバルウイングズ)周辺は、さらなる都市機能の強化を図りながら、羽田空港とともに広域拠点域の活性化に寄与する都市づくりを目指します。

⑪港湾・先端テクノロジー実装エリア

広域拠点域の一角をなす令和島は、先端テクノロジーを取入れながら、港湾・物流施設の機能強化や就業者の環境改善を図るとともに、中央防波堤埋立地としての一体性確保の観点から、東京都や周辺地域と連携・協調し、「東京ベイ eSG プロジェクト」などの実現に向けた都市づくりを目指します。



出典：東京都港湾局 HP

【土地利用方針図】

